

情報名:ミラノ 2K・M ソリューションシステムによる塗装仕様

淡色系メタリックの補修塗装で、ムラ・ボカシ塗装時にボカシ際が黒くなる等の問題を解決する塗装仕様です。

このような問題の解決策として、下記の仕様書をご参照ください。

一方、シルバーメタリックの中で透けている塗色が多く、調色作業・補修塗装が難しくなっています。

トラブルの少ない補修塗装をするため、塗装工程を再度見直してみましょう。

◆ 各塗料の調合

①アンダーコンディショナーを使用する場合の調合

アンダーコンディショナー	100	※ 静電気の防止・ミストのナジミ改善に使います
リアクター	70~130	※ リアクターの希釈が少ないと、メタリックの戻しムラが出易くなります。
	170~230	

②ハイグラデーションをムラ取り・ボカシ時に使用する場合の調合

色決め塗料	100	※ 色決め塗装までは従来通り塗装して頂き、ムラ消し・ボカシの時に色決めて使った塗料中に 30%混合して、ムラ消し作業とあわせてボカシ塗装する。
ハイグラデーション	30	
	130	

③ハイグラデーションを調色時に混合して使う場合の調合

調色塗料	100	※ 計量調色時に、ハイグラデーションを 20~40%混合して、微調色してから塗装してください。
ハイグラデーション	20~40	
	120~140	

(0714・0711 を中心に使っている塗色 40%)
(その他のメタリック原色が中心の塗色 20%)

④ハイカラーベースグレーを使った下塗り色の調合

調色塗料	100	※ トマリの悪いシルバー系塗色の場合、まずハイカラー調合品で下地を均一な色相に隠蔽してください。
ハイカラーベースグレー	10~30	
リアクター	70~130	※ 次に本来の上塗り色を塗装してください。
	180~260	※ <u>ハイカラー調合品を塗装する場合、肌を作らないように、ミストのガサツキがないように塗装してください。</u>

⑤クリヤーの調合

※ 各クリヤーの仕様書に準ずる。

◆ ブロック塗装 No1 標準工程

- ※ 交換パーツを含む塗装の場合は、調色時作成した塗板で色相を確認しながら塗装してください。
- ※ プラサフの上に直接上塗り色を塗る場合は、まずプラサフの上を 1~2 回塗り指触乾燥させてから、全体を塗装してください。
- ※ 塗り重ね時は、塗装間隔を充分取り塗膜中の溶剤を蒸発させながら塗り重ねてください。

①捨て吹き塗装

- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

②色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように 2~3 回程塗装してください。
メタリックの塗装は、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねてください。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生
の原因となります。

③ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 10cm程ガン距離を離し
て、色決め塗装と同じパターン重ねで 1~2 回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げてください。
- この工程でムラが消えない場合は、色決め工程に戻ってください。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10分間置いてください。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

- 各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

◆ ブロック塗装 No2 ムラ消し工程でハイグラデーションをブレンド

- ※ 大面積の塗装で、ミストのナジミが悪くムラが出易い場合は、ムラ消し工程において色決めに使った塗料に、ハイグラデーションを 30%混合してムラ消し塗装を行う。
- ※ 同工程の場合、色相が若干変わることがあります。
色相の確認をしてください。

①捨て吹き塗装

- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

②色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように 2~3 回程塗装してください。
メタリックの塗装は、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねてください。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生
の原因となります。

③ムラ消し塗装

- ムラ消し工程で使う塗料は、色決め時に使った塗料へハイグラデーションを 30%混合した塗料を
ご使用ください。
- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 10cm 程ガン距離を離し
て、色決め塗装と同じパターン重ねで 1~2 回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3 分ツヤ程度になるように仕上げてください。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10 分間置いてください。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

- 各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

◆ ブロック塗装 No3 塗色塗料中にハイグラデーションをブレンド

※ メタリック塗装でムラの発生が激しく、ムラが消えない場合は、計量調色の時点でハイグラデーションを20～40%混合して調色してください。

(参考 0714・0711 を中心に使っている塗色 40%)

(その他のメタリック原色が中心の塗色 20%)

※ 同塗装仕様は、シルバー系・ベージュ系を中心とした淡色系塗色に該当します。
又、トマリが若干悪くなります。

①捨て吹き塗装

- 塗装する塗料は、最初からハイグラデーションを20～40%混合した塗料を使ってください。
- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

②色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように2～3回程塗装してください。
特にこの仕様でのメタリックの塗装は、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねてください。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生の原因となります。
- 同工程の場合、トマリが若干悪くなるためご注意ください。

③ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで1～2回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げてください。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5～10分間置いてください。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

- ◆ ブロック塗装 No4 ハイカラー調合ベースグレー品を使っての塗装
 - ※ 0715・0716・0725・0726 を中心に使った淡色系塗色は、トマリが悪いです。
被塗物にプラサフ・パテ等が塗られている上に塗装する場合、トマリの悪い塗色ではなかなか隠蔽できません。
まず、ハイカラー調合品で被塗物を均一な色に塗装してから、本来の塗色を塗装してください。
 - ※ ハイカラーは、調色塗料と 10～30:100 で混合したものをお使いください。
 - ※ ハイカラー調合品塗装後、5～10 分程セッティング時間を取ってから、メタリックを塗装してください。
 - ※ ハイカラー調色品とハイグラデーションを組み合わせると、塗装作業はさらに UP します。

①ハイカラーベースグレー調合品の塗装

- ハイカラーベースグレー：調色塗料：リアクター=10～30：100：70～130 調合塗料を、塗装面全体に肌を作らないように、被塗物が隠蔽するように塗装する。
- ハイカラーベースグレー調色品は、ガサツキのないように塗装してください。
- ハイカラーベースグレー調色品を塗装したら、5～10 分程セッティング時間を取ってから、上塗り塗料を塗装してください。

②捨て吹き塗装

- 塗装面全体を、薄く均一な塗膜に仕上がるように塗装する。
(塗膜のハジキ確認・次に塗る塗膜のタレ防止が目的)

③色決め塗装

- 塗装面全体に、ツヤがでるように 2～3 回程塗装してください。
メタリックの塗装では、塗装間隔を充分取りながら塗り重ねてください。
- この工程での塗り込みが少ないと、次のムラ消し工程のミストのナジミが悪くなり、吹きムラ発生の原因となります。

④ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで 1～2 回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3 分ツヤ程度になるように仕上げてください。

⑤クリアー塗装

- メタリック塗装からクリアー塗装までのセッティングは、5～10 分間置いてください。
- クリアーの塗装は、各クリアーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

各クリアーのマニュアルをご参照ください。

◆ ボカシ塗装 No1 標準工程

※ アンダーコンディショナーの必要性

淡色系メタリックは、濃色系メタに比べて乾燥が速いため、ボカシ際の乾燥がより速くなり、ボカシ際にガサツキが発生して黒ずみという現象が生じます。

この現象を防止するのがアンダーコンディショナーです。

メタリックを塗る前にアンダーコンディショナー調合品を塗装し、その上からメタリックを塗装すると、ボカシ際の乾燥が遅くなりミストのナジミ・アルミの並びが良くなるので、黒ずみが改善します。

①アンダーコンディショナーの塗装

- アンダーコンディショナー調合品をメタリックのボカシ予定部に2~3回程塗装する。
アンダーコンディショナーは全体にツヤが出るように塗装してください。

②メタリックの色決め塗装

- 1回目は薄く捨て吹き程度塗って2回目からは5~7部ツヤ程度になるように塗り重ねて下地を隠蔽してください。
- 一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねてください。
(塗装間隔が短いと、吹きムラ・戻しムラの原因となります。)
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目と少しずつ塗り広げてください。
(ボカシ際を同じ所で行うと、ミストがガサツキやすく際の黒ずみにつながります。)
- ボカシ際は、少しずつ薄くなるように塗装してください。
(このテクニックが、ボカシ際が目立つかどうかのポイントとなります。)

③ムラ消し及びボカシ塗装

<アンダーコンディショナーの塗装>

- メタリックのボカシ部を中心に、再度アンダーコンディショナー調合品を塗装します。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げてください。
(この時のアンダーコンディショナーは、3~5部ツヤに仕上がるように1~2回軽く塗装します。)
(塗りすぎると戻しムラになり易く、塗り足りない効果が弱く吹きムラになりやすいです)

<ムラ消し塗装>

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より5~10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねで1~2回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げてください。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10分間置いてください。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

◆ ボカシ塗装 No2 ムラ消し工程でハイグラデーションをブレンド

- ※ ボカシ塗装において、トマリを落とさずにムラ・際の黒ずみを改善したい場合は、ムラ消し工程において、色決め工程で使った調色塗料にハイグラデーションを 30%混合し、ムラ消し塗装を行う。

①アンダーコンディショナーの塗装

- アンダーコンディショナー調合品をメタリックのボカシ予定部に 2~3 回程塗装する。
アンダーコンディショナー全体にツヤが出るように塗装してください。

②メタリックの色決め塗装

- 1 回目は薄く捨て吹き程度塗って 2 回目からは 5~7 部ツヤ程度になるように塗り重ねて下地を隠蔽してください。
- 一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねてください。
(塗装間隔が短いと、吹きムラ・戻しムラの原因となります。)
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目とり 少しずつ塗り広げて下さい。
(ボカシ際を同じ所で行うミストがガサツキやすく際の黒ずみにつながります。)
- ボカシ際は、少しずつ薄くなるように塗装してください。
(このテクニックが、ボカシ際が目立つかどうかのポイントとなります。)

③ムラ消し及びボカシ塗装

<アンダーコンディショナーの塗装>

- メタリックのボカシ部を中心に、アンダーコンディショナー調合品を塗装します。
(この時のアンダーコンディショナーは、3~5 部ツヤに仕上げるよう 1~2 回軽く塗装。)
(塗りすぎると戻しムラになり易く、塗り足りないと効果が弱く吹きムラになりやすいです)

<ムラ消し塗装>

- ムラ消し工程で使う塗料は、色決め工程で使った塗料にハイグラデーションを 30%混合した塗料を使う。
ハイグラデーションを混合すると、スカシが若干黒くなりますが、ボカシ塗装では判断出来ない程度の変化に留まります。
- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より 5~10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねて 1~2 回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3 分ツヤ程度になるように仕上げてください。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5~10 分間置いてください。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

◆ ボカシ塗装 No3 アンダーコンディショナーを使わない塗装工程

- ※ シルバー系メタリックは、トマリと塗装作業性が相反する関係にあり、両方の性能を同時に改善するのは難しい状況にあります。アンダーコンディショナーを使わずにボカシ塗装をする場合は、トマリを落としてやる必要があります。
計量調色時に、ハイグラデーションを 20～40%混合すると、アンダーコンディショナーなしでボカシ塗装が可能となります。
- ※ 計量調色時に、ハイグラデーションを 20～40%混合してから、微調色してください。
(0714・0711 を中心に使っている塗色 40%)
(その他のメタリック原色が中心の塗色 20%)
- ※ トマリが悪くなるのでご注意ください。

①調色作業

- 上塗り塗色を計量調色して、使用メタリック原色に応じてハイグラデーションを 20～40%の割合で混合する。
上記作業後、微調整を行う。

②メタリックの色決め塗装

- 1回目は薄く捨て吹き程度塗って2回目からは5～7部ツヤ程度になるように塗り重ねて下地を隠蔽してください。
- 一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねてください。
(塗装間隔が短いと、吹きムラ・戻しムラの原因となります。)
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目より少しずつ塗り広げてください。
(ボカシ際を同じ所で行うミストがガサツキやすく際の黒ずみにつながります。)
- ボカシ際は、少しずつ薄くなるように塗装してください。
(このテクニックが、ボカシ際が目立つかどうかのポイントとなります。)

③ムラ消し塗装

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より5～10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねて1～2回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げてください。

④クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5～10分間置いてください。
- クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

⑤乾燥

各クリヤーのマニュアルをご参照ください。

◆ ボカシ塗装 No4 ハイカラーベースグレイ使用による塗装工程

- ※ トマリの悪い塗色(淡色系塗色)をボカシ塗装する場合、下塗り色で下地を隠蔽してから上塗り色を塗らないと、隠蔽しない際のガサツキ・黒ずみ発生等の問題が生じます。
このような場合、ハイカラーを使いボカシ塗装すると、簡単にボカシ塗装をする事が可能となります。
- ※ ハイカラーは、上塗り色：ハイカラー：リアクター = 100：10～30：70～130 で調合します。
- ※ ハイカラーとハイグラデーションを組み合わせると、塗装作業はさらに UP します。

①下塗り色の調色

- 上塗り色：ハイカラーベースグレイ：リアクター = 100：10～30：70～130

②下塗り色の塗装

- 上記ハイカラー調色品でパテ・プラサフ上を塗装して隠蔽する。
ミストにガサツキのないように、肌が出ないように塗装する。
- ハイカラー調色品塗装後、5分程度セッティングしてから上塗りしてください。

③アンダーコンディショナーの塗装

- アンダーコンディショナー調合品を、メタリックのボカシ予定部を中心に2～3回程塗装する。

④メタリックの色決め塗装

- 1回目は薄く捨て吹きし、2回目からは5～7部ツヤ程度になるように塗り重ねて、下地を隠蔽してください。
- メタリックは、一度に厚塗りせずに塗装間隔を充分(指触乾燥程度)取って、塗り重ねてください。
- メタリックを塗装する時は、一回目より二回目・二回目より三回目と少しずつ広げながら塗装してください。
- ボカシ際は、出来るだけ薄くなるように塗装してください。

⑤ムラ消し及びボカシ塗装

<アンダーコンディショナーの塗装>

- メタリックのボカシ部を中心に、再度アンダーコンディショナー調合品を塗装します。
(アンダーコンディショナーは、3～5部ツヤに仕上がるように1～2回軽く塗装します。)

<ムラ消し塗装>

- ムラ消し塗装は、色決め塗膜全体が指触乾燥してから、色決め塗装より5～10cm程ガン距離を離して、色決め塗装と同じパターン重ねて1～2回塗装してください。
- ムラ消し塗装が終わった時点で、3分ツヤ程度になるように仕上げてください。

⑥クリヤー塗装

- メタリック塗装からクリヤー塗装までのセッティングは、5～10分間置いてください。

⑦乾燥

クリヤーの塗装は、各クリヤーのマニュアルをご参照ください。